

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	青山製図専門学校
設置者名	学校法人 鹿光学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
製図専門課程 (工業)	建築工学科 (3年制)	夜・通信	3,716 時間	$80 \times 3 = 240$ 時間	
	建築設計デザイン科 (建築デザインコース) (2年制)	夜・通信	2,480 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
	築設計デザイン科 (環境デザインコース) (2年制)	夜・通信	2,480 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
	住宅設計デザイン科 (2年制)	夜・通信	2,480 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
	建築インテリア工学科	夜・通信	3,716 時間	$80 \times 3 = 240$ 時間	
	商空間デザイン科 (2年制)	夜・通信	2,472 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
	建築インテリアデザイン科 (2年制)	夜・通信	2,472 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
	建築設計研究科 (建築コース) (1年制)	夜・通信	1,127 時間	$80 \times 1 = 80$ 時間	
	建築設計研究科 (インテリアコース) (1年制)	夜・通信	1,127 時間	$80 \times 1 = 80$ 時間	
	建築科 (2年制)	夜・通信	1,722 時間	$45 \times 2 = 90$ 時間	

	インテリア工学科（2年制）	夜・通信	1,716 時間	$45 \times 2 = 90$ 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて授業科目一覧を公開。授業科目一覧の中で、教員の実務経験に関する記述有。
 (掲載: <https://www.aoyamaseizu.ac.jp/about/school/disclosure>)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	青山製図専門学校
設置者名	学校法人鹿光学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて理事名簿を公開している。
(掲載：<https://www.aoyamaseizu.ac.jp/about/school/disclosure>)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人理事長・ 社会福祉法人理事長	2021.5.30～ 2023.5.29	教育・福祉にわたる 社会活動の観点か らの助言
非常勤	元建設会社専務取締役	2021.5.30～ 2023.5.29	建築業界、実業界活 動の経験をもとに 職業人養成教育に ついての助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	青山製図専門学校学校
設置者名	学校法人鹿光学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 建築工学科 昼間部(3年制)、建築設計デザイン科(建築デザインコース)昼間部(2年制)、建築設計デザイン科(環境デザインコース)昼間部(2年制)、住宅設計デザイン科 昼間部(2年制)、建築インテリア工学科 昼間部(3年制)、商空間デザイン科 昼間部(2年制)、建築インテリアデザイン科 昼間部(2年制)、建築設計研究科(建築コース)昼間部(1年制)、建築設計研究科(インテリアコース)昼間部(1年制)、建築科 夜間部(2年制)、インテリア工学科 夜間部(2年制)) 【作成について】 全ての科目の授業計画(シラバス)については、毎年度、学部内において次年度の授業科目の設定および講義内容の検討をする。その際に、当年度の反省・改善等の検証作業を必ず行う。その結果を基に、各授業を担当する教員及び学科長を中心に、翌年度のシラバスを作成する。 また、学内の規則(シラバス作成の方法と、それに基づいて作成されたサンプル用シラバスを参考)として、授業科目名、取得単位・時間、担当教員、実務経験者である教員の担当科目であるかの表記、授業の到達目標、授業概要、授業計画(各回の授業プラン)、成績評価方法等に関する事項は、全科目共通で記載することが必須となっており、学内統一様式でシラバス作成を行っている。 【時期について】 翌年度の講義予定(授業計画)は、12月～1月の間に学部内の会議において検討・検証される。この結果を受けて、2月中に各担当教員と学科長を中心にシラバスを作成する。3月初旬に開催される、校長・理事長以下部長クラスで構成される会議において、承認されることで正式決定する。3月中旬に、翌年度分のシラバスをHP上に公開する。	
授業計画書の公表方法	掲載： https://www.aoyamaseizu.ac.jp/about/school/disclosure
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

以下に示す教務規程(第14条)において、学内の成績評価、履修、進級・卒業要件について規定している。各学科で定める授業科目の試験等(レポート、小テスト、出欠席、就学態度等を考慮)により成績評価を行っている。

(学業成績の評価並びに進級・卒業の認定に関する規程)

第14条 この規程は、本校における成績の評価並びに進級及び卒業の認定について定める。

1項 進級・卒業の認定は校長が行う。

2項 成績の評価について、点数は講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、就学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。

3項 成績評価は各学期成績と学年成績に区分し、授業科目(以下「科目」という)ごとに評価する。評価は採点表により、指定期日迄に各担任に提出する。学年成績の評価は、各学期の成績を総合して(「教科担当が」削除)決定する。

4項 科目の成績は10点法で評価し、5点以上を合格とする。科目の欠席時数(注1)が学校の定める年間(半期で終了する科目は当期)授業時数の1/4を超える科目は、原則として不合格とする。また、日常の課題で製図を不正にトレースした、或いはCAD・パソコンデータを不正にコピーしたと判明した場合は、原則、当該科目成績は0点とし、当該課題は未提出課題として数える。

(注1) 各科目における遅刻・早退は、教科担当の裁量により出席または欠席時数の取り扱いを行う。教科担当者は、各期の成績報告書に出欠状況を付記する。

5項 担任は、前期のクラス成績一覧表及び各教科欠時一覧表を作成する。学年末には、前期・後期総合成績一覧表及び各教科欠時一覧表を作成する。

(成績一覧表は10点法及び5段階〔SABCD〕評価の二通りで作成する)

6項 成績の評定・評価の区分は表-1による。

表-1 成績評価

評価	点数	合否	指標	単位	GP
S	10	合	4	各科目で定められた 単位数 (シラバス等参照)	点数×単位数
	9	合			
A	8	合	3		
B	7	合	2		
	6	合			
C	5	合	1		
D	4	否	0		
	3	否			
	2	否			
	1	否			

※GPとはGPAの算出に用いられるポイントで、科目ごとに算出するポイントの事。

※GPT とは GPA の算出に用いられるポイントで、全科目の GP の合計ポイント。
 ※GPA とは履修した科目の GP の平均ポイントのこと。以下の式で算出される。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本校では2019年度より、教務規定第14条において、GPA(Grade Point Average) 制度を導入し、学内の成績評価として使用する。GPAは学生の履修した1単位あたりの平均成績を指す。当校では、就職の学内推薦枠の候補者選定や、独自特待生奨学金、学業優秀者の表彰候補者選出などに活用する。(※GPAによる成績の分布状況の把握の参考のために、昨年度1学年を対象にGPA制度に準拠した成績分布を作成し、本校ホームページ上で公表したが、2019年度以降は毎年度、本校GPA制度に準拠した全学科の成績の分布状況を公表する。)

学業成績は、科目ごとに授業到達目標を定めた、ルーブリック(学習成果水準)を作成する。ルーブリックを活用することによって講義科目と実技科目の両科目において、学生の学習成果の到達度を適正に数値化することが出来ると考えている。また、評価には担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。各授業の評価は10点満点を基準として、5点以上を合格としている。合格者の中でも、評価点数により10～9をS、8をA、7～6をB、5をCとして換算し、学生に成績が通知される。

GPAは以下のように算出する。

科目ごとのGP(点数×単位数)の総合計÷総履修単位数(不合格科目も含む)

この成績評価の内容及び方法は、本校ホームページ上の「成績評価基準及びGPA制度について」で公表している。その他、入学時ガイダンス、ホームルームなどで入学生及び在學生に通知している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

掲載：<https://www.aoyamaseizu.ac.jp/about/school/disclosure>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校は実践的技術力と知性・感性豊かな創造性を兼備えた実務能力を養い、基礎教育と実技主体の実践教育を通して専門教育を徹底し、豊かな人間性に富んだ社会人を育成することを目指している。

卒業要件については、各学科が定める所定の全授業科目を所定の年次に全て合格することなどを定めている。詳細についてはディプロマ・ポリシーをはじめ、教務規定、学生便覧などに記載している。

当校では「ディプロマポリシー（修了認定の方針）」及び「単位授与・履修認定（進級・卒業認定）について」を策定し、HPに公表している。

上記の基準に則り、校長、副校長、学部長、科長、担任などで構成される成績会議において、卒業・進級の認定を適正かつ厳格に実施している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

掲載： <https://www.aoyamaseizu.ac.jp/about/school/disclosure>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	青山製図専門学校学校
設置者名	学校法人鹿光学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	毎年6月下旬に最新情報をHPにて公開 https://www.aoyamaseizu.ac.jp/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		製図専門課程 (工業)	建築工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間 部	3716 単位時間／ 151 単位	1360 単位 時間 82/単位	578 単位 時間 17/単位	0 単位時 間/ 0 単位	0 単位時 間/ 0 単位	1744 単位 時間 52/単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
95 人		86 人	1 人	11 人	19 人	30 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照

成績評価の基準・方法

（概要）
様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）
様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照

学修支援等

(概要) 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的なイメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
25 人 (100%)	22 人 () (%)	2 人 () (%)	1 人 () (%)
(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ 100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおよそ半々である。その主な企業は清水建設（株）・（株）住友不動産・須賀工業（株）・（株）梓設計などである。			
(就職指導内容) 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシート の書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 在学中の取得を目指す資格は、福祉住環境コーディネーターと商業施設士補などである。			
(備考)（任意記載事項） 卒業生の 70%以上が本校「建築設計研究科」へ内部進学し、大半が 2 級建築士を取得する。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
84 人	1 人	1.2%
(中途退学の主な理由) 退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、週 1 回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、		

学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		製図専門課程 (工業)	建築設計デザイン科 (建築デザインコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 部	2,480 単位時間／ 104 単位	1020 単位時間 /60 単位	340 単位 時間/10 単位	0 単位時 間/0 単位	0 単位時 間/0 単位	1120 単位 時間/34 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
132 人		58 人の内 30 人	2 人	11 人	19 人	30 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照	
成績評価の基準・方法	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照	
学修支援等	
(概要) 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的イメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
27 人 (100%)	13 人 (48.1%)	9 人 (33.3%)	5 人 (18.6%)

(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ 100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおおよそ半々である。その主な企業は清水建設(株)・(株)住友不動産・須賀工業(株)・(株)梓設計などである。
(就職指導内容) 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。
(主な学修成果(資格・検定等)) 在学中の取得を目指す資格は、福祉住環境コーディネーターと商業施設士補などである。
(備考)(任意記載事項) 卒業生の 50%近くが本校「建築設計研究科」へ内部進学し、大半が 2 級建築士を取得する。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
64 人	5 人	7.8%
(中途退学の主な理由) 退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、週 1 回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		製図専門課程 (工業)	建築設計デザイン科 (環境デザインコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 部	2,480 単位時間／ 109 単位	1190 単位時間 /70 単位	136 単位 時間/4 単 位	0 単位時 間 01 単 位	0 位時間 /0 単位	1152 単位 時間/35 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
132 人		58 人の内 28 人	1 人	11 人	19 人	30 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的なイメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30 人 (100%)	21 人 (70.0%)	7 人 (23.3%)	2 人 (6.7%)

(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ 100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおおよそ半々である。その主な企業は清水建設(株)・(株)住友不動産・須賀工業(株)・(株)梓設計などである。
(就職指導内容) 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。
(主な学修成果(資格・検定等)) 在学中の取得を目指す資格は、福祉住環境コーディネーターと商業施設士補などである。
(備考)(任意記載事項) 卒業生の 70%が本校「建築設計研究科」へ内部進学し、大半が 2 級建築士を取得する。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
65 人	5 人	7.6%
(中途退学の主な理由) 退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、週 1 回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
工業分野		製図専門課程 (工業)	住宅設計デザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間 部	2, 480 単位時間／ 106 単位	1088 単位時間 /64 単位	408 単位 時間/12 単位	0 単位時 間/0 単位	0 単位時 間/0 単位	984 単位 時間/30 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
65 人		58 人	2 人	11 人	19 人	30 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照	
成績評価の基準・方法	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照	
学修支援等	
(概要) 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的イメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
25 人 (100%)	14 人 (56.0%)	8 人 (32.0%)	3 人 (12.0%)
(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおおよそ半々である。その主な企業は清水建設(株)・(株)			

住友不動産・須賀工業（株）・（株）梓設計などである。
（就職指導内容） 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。
（主な学修成果（資格・検定等）） 在学中の取得を目指す資格は、福祉住環境コーディネーター、エクステリアプランナーと商業施設士補などである。
（備考）（任意記載事項） 卒業生の50%以上が本校「建築設計研究科」へ内部進学し、大半が2級建築士を取得する。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
57人	2人	3.5%
（中途退学の主な理由） 退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、週1回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
工業分野		製図専門課程 (工業)	建築インテリア工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間 部	3, 716 単位時間／ 129 単位	646 単位時間 /38 単位	594 単位 時間/19 単位	0 単位時 間/0 単位	30 単位時 間/1 単位	2446 単位 時間/71 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
95 人		86 人	2 人	10 人	12 人	22 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照	
成績評価の基準・方法	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4	
学修支援等	
(概要) 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ループリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的なイメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体とな行っている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
24 人 (100%)	14 人 (58.3%)	9 人 (37.5%)	1 人 (4.2%)
(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおおよそ半々である。その主な企業は(株)大林デザインパートナーズ・(株)大京リフォームデザイン・ワイケイホーム(株)などである。			

(就職指導内容) 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。
(主な学修成果(資格・検定等)) 在学中の取得を目指す資格は、商業施設士補と商業施設士などである。
(備考) (任意記載事項) 卒業生の約 60%が本校「建築設計研究科」へ内部進学し、大半が 2 級建築士を取得する。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
85 人	6 人	7.0%
(中途退学の主な理由) 退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、月 1 回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		製図専門課程 (工業)	商空間デザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間 部	2,472 単位時間／85 単位	442 単位時間 /26 単位	0 単位時 間/0 単位	0 単位時 間/0 単位	0 単位時 間/0 単位	2030 単位 時間/59 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
65 人		56 人	4 人	10 人	12 人	22 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照 成績評価の基準・方法	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照	
学修支援等	
当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的イメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
22 人 (100%)	10 人 (45.4%)	10 人 (45.4%)	2 人 (9.2%)
(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおおよそ半々である。その主な企業は(株)大林デザインパートナーズ・大京リフォームデザイン(株)・(株)ワイケイホームなどである。			

(就職指導内容) 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。
(主な学修成果(資格・検定等)) 在学中の取得を目指す資格は、商業施設士補と商業施設士などである。
(備考)(任意記載事項) 卒業生の約 50%が本校「建築設計研究科」へ内部進学し、大半が 2 級建築士を取得する。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
56 人	4 人	7.1%
(中途退学の主な理由) 退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、月 1 回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		製図専門課程 (工業)	建築インテリアデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 部	2,472 単位時間／90 単位	578 単位時間 /34 単位	382 単位 時間/12 単位	0 単位時 間/0 単位	0 単位時 間/0 単位	1512 単位 時間/44 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		75 人	6 人	10 人	12 人	22 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的なイメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
34 人 (100%)	20 人 (58.8%)	10 人 (29.4%)	4 人 (11.9%)
(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおよそ半々である。その主な企業は(株)大林デザインパ			

ートナース・大京リフォームデザイン（株）・（株）ワイケイホームなどである。
（就職指導内容） 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。
（主な学修成果（資格・検定等）） 在学中の取得を目指す資格は、商業施設士補などである。
（備考）（任意記載事項） 卒業生の 50%以上が本校「建築設計研究科」へ内部進学し、大半が 2 級建築士を取得する。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
76 人	5 人	6.5%
（中途退学の主な理由） 退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、月 1 回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		製図専門課程 (工業)	建築設計研究科 (建築コース)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼間 部	1, 127 単位時間／49 単位	527 単位時間 /31 単位	0 単位時 間/0 単位	272 単位 時間/8 単 位	0 単位時 間/0 単位	328 単位 時間/10 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		115 人の 内 71 人	4 人	11 人	3 人	14 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) 様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照	
成績評価の基準・方法	
(概要) 様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照	
学修支援等	
(概要) 前期は 2 級建築士試験に合格することが目標である。今年度からは、4 月入学前の 3 月から課題を与える、早期授業を実行した。4 月からの授業では問題演習、模擬試験を繰り返し、初めての受験で合格できる学力を身に付けさせるカリキュラムを工夫している。成績不振者を対象とした特別補習も各科目で行い、全体のボトムアップを図っている。後期では、業界での需要を見込んだカリキュラムを組んでいる。生産設計や建築企画を学習し、即戦力として働けるように考慮した構成である。また、最先端のソフトである ArchiCAD、Rhinoceros+Grasshopper 等を取り入れて、業界の新たな潮流である、パラメトリックデザインに対応したカリキュラムとしている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
52 人 (100%)	0 人 (0.0%)	43 人 (82.6%)	9 人 (17.4%)

(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ 100%の学生が建築関係業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおおよそ半々である。その主な企業は(株)梓設計、(株)飯田産業、住友不動産株などである。
(就職指導内容) 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。
(主な学修成果(資格・検定等)) 前期の二級建築士受験結果は、一次試験(学科) 89.0%、二次試験(製図) 92.0%であった。最終合格率は 81.6% (全国平均 26.4%) で全国平均の 3 倍以上の合格率という目標を達成した。後期に関しては、企業からの要請・期待の大きい CG・BIM・動画制作といった、ICT 社会で活躍できる人材を目標に掲げ、明確に学内外にアピールできた。
(備考) (任意記載事項) 当学科は 1 年制である。しかし前期は 2 級建築士受験のための学習を行う。後期は実務で即戦力として活かせる実践的な知識と技術を習得する。このように前後期を明確に分離した学習目標にすることで、学内的に前期課程修了者と 1 年課程修了者とを認めている。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
77 人	25 人	32.4%
(中途退学の主な理由) 上記備考欄に記載通り、前期修了者以外に退学者はいない。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 前期修了者に対しても就職活動の支援を、在校生と全く同じシステム及び内容と質で行っている。従って、前期修了者も含めて、就職率 100%を達成している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		製図専門課程 (工業)	建築設計研究科 (インテリアコース)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼間 部	1, 127 単位時間／47 単位	459 単位時間 /27 単位	0 単位時 間/0 単位	340 単位 時間/10 単位	0 単位時 間/0 単位	328 単位 時間/10 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		115 人の 内 44 人	1 人	10 人	3 人	14 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) 様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照	
成績評価の基準・方法	
(概要) 様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照	
学修支援等	
(概要) 前期は 2 級建築士試験に合格することが目標である。今年度からは、4 月入学前の 3 月から課題を与える、早期授業を実行した。4 月からの授業では問題演習、模擬試験を繰り返し、初めての受験で合格できる学力を身に付けさせるカリキュラムを工夫している。成績不振者を対象とした特別補習も各科目で行い、全体のボトムアップを図っている。後期は「ICT 社会に適應できる人材育成」というテーマを基本とし、さらに卒業後に就職先の業務において貢献できるように自主性を養うことに重きを置いたカリキュラムとしている。また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
31 人 (100%)	1 人 (3.2%)	21 人 (67.7%)	9 人 (29.1%)
(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ 100% の学生が建築・インテリア業界に就職する。その主な企業は (株) ウィッシュワーク設計事務所、振興電気 (株)、松本設計ホールディングス (株) などである。			

(就職指導内容) 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。
(主な学修成果(資格・検定等)) 前期の二級建築士受験結果は、一次試験(学科) 91.3%、二次試験(製図) 92.6%であった。最終合格率は 84.4% (全国平均 26.4%) で全国平均の 3 倍以上の合格率という目標を達成した。後期に関しては、企業からの要請・期待の大きい CG・BIM・動画制作といった、ICT 社会で活躍できる人材を目標に掲げ、明確に学内外にアピールできた。
(備考) (任意記載事項) 当学科は 1 年制である。しかし前期は 2 級建築士受験のための学習を行う。後期は実務で即戦力として活かせる実践的な知識と技術を習得する。このように前後期を明確に分離した学習目標にすることで、学内的に前期課程修了者と 1 年課程修了者とを認めている。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
47 人	16 人	34.0%
(中途退学の主な理由) 上記備考欄に記載通り、前期修了者以外に退学者はいない。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 前期修了者に対しても就職活動の支援を、在校生と全く同じシステム及び内容と質で行っている。従って、前期修了者も含めて、就職率 100%を達成している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		製図専門課程 (工業)	建築科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜間 部	1,722 単位時間／74 単位	884 単位時間 /50 単位	72 単位時 間/2 単位	0 単位時 間/0 単位	0 単位時 間/0 単位	766 単位 時間/22 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		115 人	0 人	9 人	7 人	16 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照	
成績評価の基準・方法	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照	
学修支援等	
(概要) 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的イメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
31 人 (100%)	1 人 (3.2%)	23 人 (74.2%)	7 人 (22.5%)
(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおおよそ半々である。その主な企業は大和ハウスリフォーム(株)・(株)匠設計コンサルタントなどである。			

(就職指導内容) 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。
(主な学修成果(資格・検定等)) 在学中の取得を目指す資格は、商業施設士補などである。受験した学生は全員合格した。
(備考)(任意記載事項) 卒業生のその他は、建築士の資格を取得してからの転職希望である。そのため卒業しても、在学中の仕事を継続する学生である。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
91 人	9 人	9.8%
(中途退学の主な理由) 退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、月1回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		製図専門課程 (工業)	インテリア工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜間 部	1,716 単位時間／60 単位	468 単位時間 /26 単位	220 単位 時間/6 単 位	0 単位時 間/0 単位	0 単位時 間/0 単位	1028 単位 時間/28 単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		62 人	0 人	7 人	5 人	12 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照 成績評価の基準・方法	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照	
学修支援等	
(概要) 当校では毎年、指導方法の改善、シラバス・ルーブリックの改定を実施しながら、より学習の定着度が増す工夫を実践している。具体的には、講義科目においては「繰り返し」、「小出し」、「小テスト」をキーワードに全員が目標レベルに到達できるよう、丁寧に指導する。実技科目においては「お手本」「真似る」をキーワードに、制作物の具体的なイメージを最初に提示し、出来るだけ早く手を動かすことを促す指導を心掛けている。 また、当校は少人数クラスの担任制を布いており、学習から日常生活まで担任がサポートする体制をとっている。個人面談、進路指導、就職活動相談、などなど様々な支援を行っている。その他、課外活動など、多岐に亘る学生への支援活動を、学校全体として教職員が一体となって行っている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
20 人 (100%)	1 人 (5.0%)	12 人 (60.0%)	7 人 (35.0%)
(主な就職、業界等) 毎年、ほぼ100%の学生が建築・インテリア業界に就職する。業種としては大きく、施工管理系と設計・デザイン系がおおよそ半々である。その主な企業は(株)藤田建装・(株)ベルソンなどである。			

(就職指導内容) 本校、就職課において就職活動学生に対して「就職ガイダンス」を全員に実施している。そこではキャリアデザインの相談、履歴書・エントリーシートの書き方、SPI・入社試験対策、面接指導などのサポートを行っている。サポートは就職課だけでなく、担任を中心とした教員全員や教務課などの職員を含め、全学体制で臨んでいる。
(主な学修成果(資格・検定等)) 在学中の取得を目指す資格は、商業施設士補などである。
(備考)(任意記載事項) 卒業生のその他は、建築士の資格を取得してからの転職希望である。そのため卒業しても、在学中の仕事を継続する学生である。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
55 人	3 人	5.5%
(中途退学の主な理由) 退学理由で顕著なのは「進路変更」である。本校の授業と課題の数は多く、中途半端な気持ちでは進級・卒業は難しく、進路変更を理由に退学する。また同じ理由から学業不振となり留年から退学に至るケースもある。その他には、経済的な理由で学業を続けられない学生も存在する。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退学する元の、そして最初のきっかけは出席不良である。まずは学校に来させることが重要である。対応として、無断欠席は必ずその日の内に、本人と連絡を取るようになっている。また、月1回程度「退学防止会議」を実施し、予兆のある学生に対して、学部長以下クラス担任まで、そして保護者・クラスメイトからも情報や協力募って、組織的に対応を図っている。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
建築工学科 (3年制)	240,000 円	767,000 円	223,600 円	
建築設計デザイン科 (建築デザインコース) (2年制)	240,000 円	767,000 円	223,600 円	
建築設計デザイン科 (環境デザインコース) (2年制)	240,000 円	767,000 円	223,600 円	
住宅設計デザイン科 (2年制)	240,000 円	767,000 円	223,600 円	
建築インテリア工学科 (3年制)	240,000 円	797,000 円	235,960 円	
商空間デザイン科 (2年制)	240,000 円	797,000 円	235,960 円	
建築インテリアデザイン科 (2年制)	240,000 円	797,000 円	235,960 円	
建築設計研究科 (建築コース) (1年制)	120,000 円	767,000 円	223,600 円	
建築設計研究科 (インテリアコース) (1年制)	120,000 円	767,000 円	223,600 円	
建築科 (2年制)	120,000 円	340,000 円	90,000 円	
インテリア工学科 (2年制)	120,000 円	340,000 円	90,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページにて公開 https://www.aoyamaseizu.ac.jp/about/school/disclosure		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
本校の教育活動や学校運営の状況に関する評価を積極的に行い、その評価結果に基づき改善を図り、社会にとって必要な人材を育成していくことを目的とする。委員会は年一回の開催とし、委員は関係企業の役職員・本校卒業生で構成される。委員会の内容は報告書としてまとめ、学内の会議やミーティングで周知し、継続的改善を行っていく上で活用していく。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
建築設備・照明デザイン	2019. 9. 1～ 2021. 8. 31	企業役員
建造物総合改修	2020. 11. 1～ 2022. 10. 31	企業役員・卒業生
総合建設	2019. 11. 20～ 2021. 11. 19	企業職員
建築設計	2020. 11. 1～ 2022. 10. 31	企業役員
店舗デザイン・住宅設計	2019. 9. 1～ 2021. 8. 31	企業役員・卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページにて公開 https://www.aoyamaseizu.ac.jp/about/school/disclosure		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.aoyamaseizu.ac.jp/
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	青山製図専門学校
設置者名	学校法人鹿光学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		39人	55人	61人
内 訳	第Ⅰ区分	24人	32人	
	第Ⅱ区分	－人	－人	
	第Ⅲ区分	－人	13人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				61人
（備考）				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下）	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-人
3月以上の停学	0人
年間計	-人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	-人
訓告	0人
年間計	-人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期 後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	-人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A 4とする。